長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１０９

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年７月２０日(木)

事故やケガ、病気のない夏休みを！

夏休みに入るにあたり、児童及び保護者の皆様にお願いです。私達教師が長期休業中に心配していることは、児童の事故やケガ、病気です。毎年、夏の時期になると水難事故、交通事故、熱中症等の悲しい事故や事件が報道されます。これらは決して対岸の火事ではありません。長洲小学校の児童にも起こり得ることなのです。自分事として捉え、予防策をご家庭でも話し合ってみてください。

私の夏休み～中学校編～

小学校編に引き続いて中学校編です。しばしお付き合いください。

中１の頃は小学校時代の延長のような、何となく過ごした夏休みでした。友達と遊ぶにしても中学校でできた友達と遊ぶというよりは、小学校時代からの仲間たちと遊んでいたような気がします。

本格的に夏休みを楽しむようになったのは、中２からでした。当時、よく覚えていることは、音楽とラジオの深夜放送が流行っていたことです。音楽はどのようにして楽しんでいたかというと、コンポーネントステレオが家にある友達に頼んで、LPレコードをカセットテープに録音してもらうのです。それを持ち帰り、壊れる寸前のラジカセに入れて聞くのですね。テープの巻き込みを防ぐために、弛みをとってソロ～ッと再生ボタンを押していたことを思い出します。ラジオの深夜番組は「オールナイトニッポン」といえば、皆さんも分かるのではないでしょうか。夏休みには夜更かしをしてよく聞いていました。当然次の日は起きることができず、昼まで寝ていることが多かったです。

中学時代の夏休みは、ちょっと背伸びをするというイメージがあります。読者の皆さんは如何でしょうか。例えば、「友達の家で勉強をする」こと。これは純粋に勉強をするということではないということは明白です。いわゆる、それを理由にして友達の家に行ったり、あわよくば泊まったりしようとする訳です。私の場合、中２までは、友達の家に泊まりに行くということはしませんでしたが、よく友達の家には遊びに行っていたことを覚えていますね。

また、自転車で仲間と一緒にあちこち行っていたことを覚えていますね。中３の時は受験勉強放ったらかしで友達と一緒に天草の姫戸町というところまで行ったことがあります。早朝５時スタート、目的地では釣りまでやって釣れた魚を持ち帰り、夕方７時頃に自宅に到着しました。往復１４０kmほどあったのではないでしょうか。本格的なサイクリングのような距離ですが、乗っていた自転車は重たい旧型のもので、よくあそこまで走ったものだと思います。

更に、当時の担任の先生に協力して頂き、キャンプにも行きました。球磨川沿いの大坂間というところにある「球泉洞キャンプ場」に行きました。お決まりの肝試しでは女の子とペアになって行動するのですが、女の子は怖がってキャーキャー言いながら、私に掴まっていました。私は照れに照れまくって、怖いけれども嬉しいという複雑な心境で、その時の表情は、怖がる部分とにやける部分とが混合された、今で言う不審者？様の表情になっていたように思います。

中学校というと、大人になる前の危うい時期ですね。少しずつですが背伸びをして、大人に憧れ、理想の大人を目指し、不器用に努力を続ける、そんな夏休み（時代）だったような気がします。

シリーズ「自分を語る」#１０９

１２月のある日、教室の明かりが点いておらずびっくりした私は、何か事件が起きたと思い、慌てて教室の扉を開けました。

「何があったつか～？」

「・・・」

「せんせ～、お誕生日おめでとうございま～す！」

その瞬間、明かりが点けられ、明るくなった教室の黒板には、私に対するメッセージが一面に書き込まれていました。この時は、ホッとすると同時に、嬉しさが込み上げてきましたねぇ。一年勝負で学級担任業務をこなしていた私にとっては、どれほど精神的な繋がりを求めて良いのか測りかねる部分もありました。ですから、この時は本当に嬉しくて、自分が一生懸命子供達に接していたことはきちんと子供達に伝わっていると確信が持てるようになり、併せて、自分のパフォーマンスの自信へ繋がっていきました。子供達はちゃっかりしたもので、こう私に言ってきました。

「誕生日のお祝いをしてあげたので、一時間目はくだらない話を。」

「あま～い。んな訳ないだろ。ただでさえくだらない話で時間ロスしているのに。」

「せんせ～もくだらない話好きじゃないですか。」

「そうそ～ばってん、教科書が終わらん。」

「よかよか、どうせせんせ～は途中で忘れて、また始めらすで。」

こうして、みんな笑顔で一時間目がつぶれていく澤田学級でした。

１２月末のクリスマス会に向けて、休み時間を使って着々と準備を進める子供達。見事、自治的集団活動が展開されています。私の所に来るのは材料の調達とか判断に苦しむことの相談だけでした。準備の中では、私の影響を受けてでしょうか、「楽しむ」という要素を忘れずに入れていましたね。大した子供達です。横断幕作成担当の子供が、横断幕に何やら漢字を書き始めました。「栗…」私はまさかと思い、担当の子供に尋ねました。

「クリスマスという片仮名に漢字をあてるの？」

「そ～で～～す！」

どうも、保護者の方が昔そんな集団（当て字を使う人たち）の中で活躍されていたらしく、協力してくれたそうです。で、こうなりました。

「栗栗魔酢怪」

みんな楽しそうに笑っていました。昨年度、殺伐とした雰囲気の中で目標も無く安心できる居場所も無かった集団とは思えない変容でした。私にとってこの年の学級経営は、学びも多かったですし、自分のやり方に自信を持った年でもありました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）